

「住民主体の地域福祉活動」の実態把握の結果について

1 実施地区数 104 地区

2 実施地区数 令和 6 年 4 月～11 月

3 実施方法

本会 C S W が地区社協役員等に令和 3 年度の活動状況と照らし合せながら、令和 5 年度の活動状況について対面で聞き取りを行った。

4 評価内容

聞き取った内容から、

①-1 継続してできていること・一層できるようになったこと

①-2 改善されたこと

②-1 できなくなったこと・新たな課題

②-2 引き続き課題であること

③-1 達成できたこと

③-2 今後の目標

④-1 指標（地区社協自己評価）

④-2 変化の要因

※ 指標（地区社協自己評価）について
令和 3 年度を「5」として、地区社協が
相対的に評価したもの（10 段階評価）

の 8 点を区・支部ごとに抽出したうえで、令和 3 年度と比較し、令和 5 年度における仙台地域の地域福祉活動がどのような状態にあるか、また、変化に影響を与えたことは何かを分析した。

5 実施してみた CSW の主な感想

- ・ コロナ禍で停滞していた地域活動も着実に活発化してきているため、今後も活動が継続できるよう支援していく。
- ・ 地域の担い手の交代などにより、再度活動の意義や連携のあり方などについて、確認する必要があることも考えられることから、企画検討の際には、地域内の連携や協力体制の充実に視点をサポートしていきたい。
- ・ 多様な主体が参加する機会を作ったり、子どもを巻き込んだ活動を実施したり、新たな取り組みも広がっている。それを下支えしているのが、日頃の住民間のコミュニケーションであるため、つながりづくりや活動 PR の機会を引き続き支援していく。

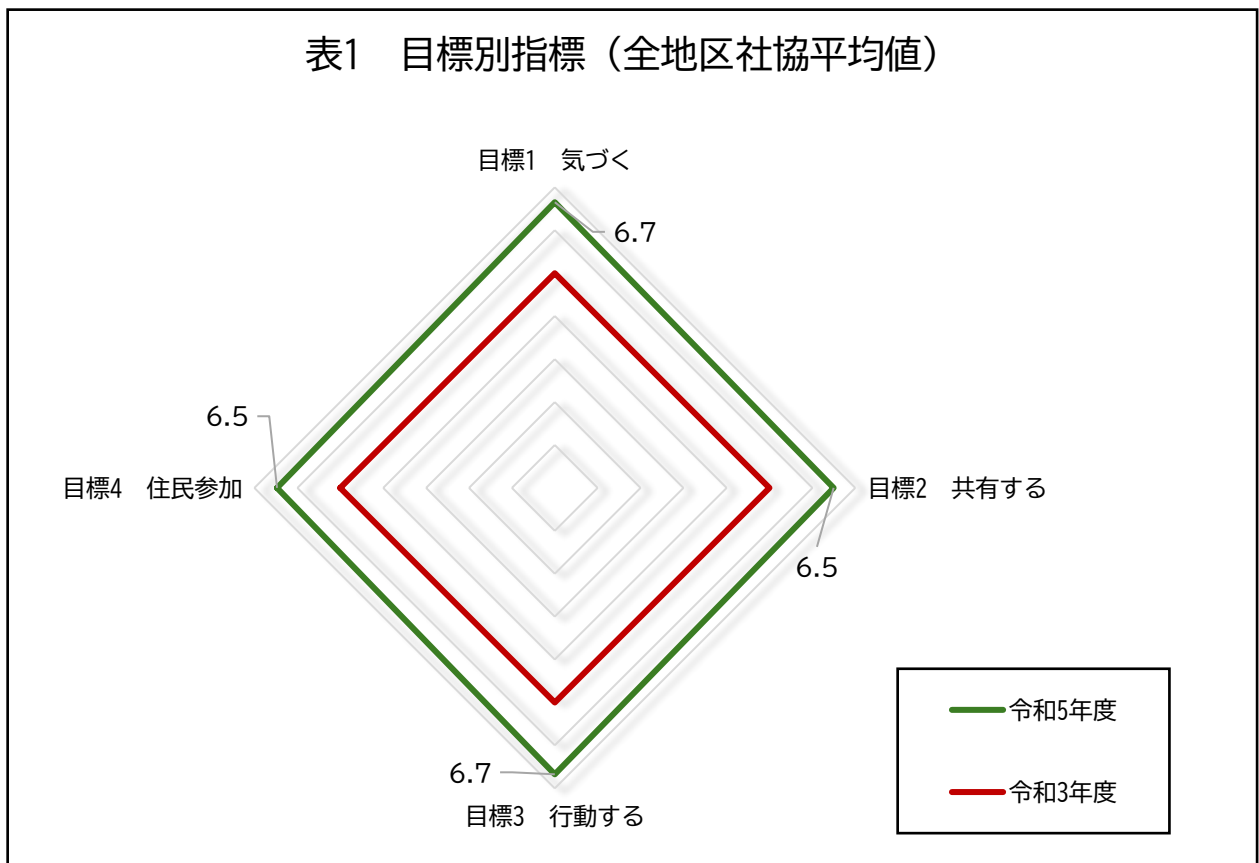


6 評価結果

(1) 全体評価（表1）

全地区社協の平均指標は、すべての目標において、令和3年度よりも向上していた。

変化の要因としては、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい時期であり、活動状況が落ち込んでいたことがあげられる。令和5年度については、当該感染症が5類感染症へと移行したことで、地域の活動が活発化し、それに伴い、相対的に全指標が向上したものである。全市的には目標別の指標に大きな差はなく、全体的にバランスよく向上していることが分かる。



※各目標の略称について

各目標項目については、以下の通り略称を用いている。

活動目標 1	「身近な福祉課題に気づく力を高める」	⇒ 目標 1 気づく
活動目標 2	「地域の課題や良さを共有する場づくりを進める」	⇒ 目標 2 共有する
活動目標 3	「解決のために行動する」	⇒ 目標 3 行動する
活動目標 4	「一人ひとりの住民の参加を推進する」	⇒ 目標 4 住民参加

(2) 項目別指標（表2）

項目別の指標も、全項目で向上している。

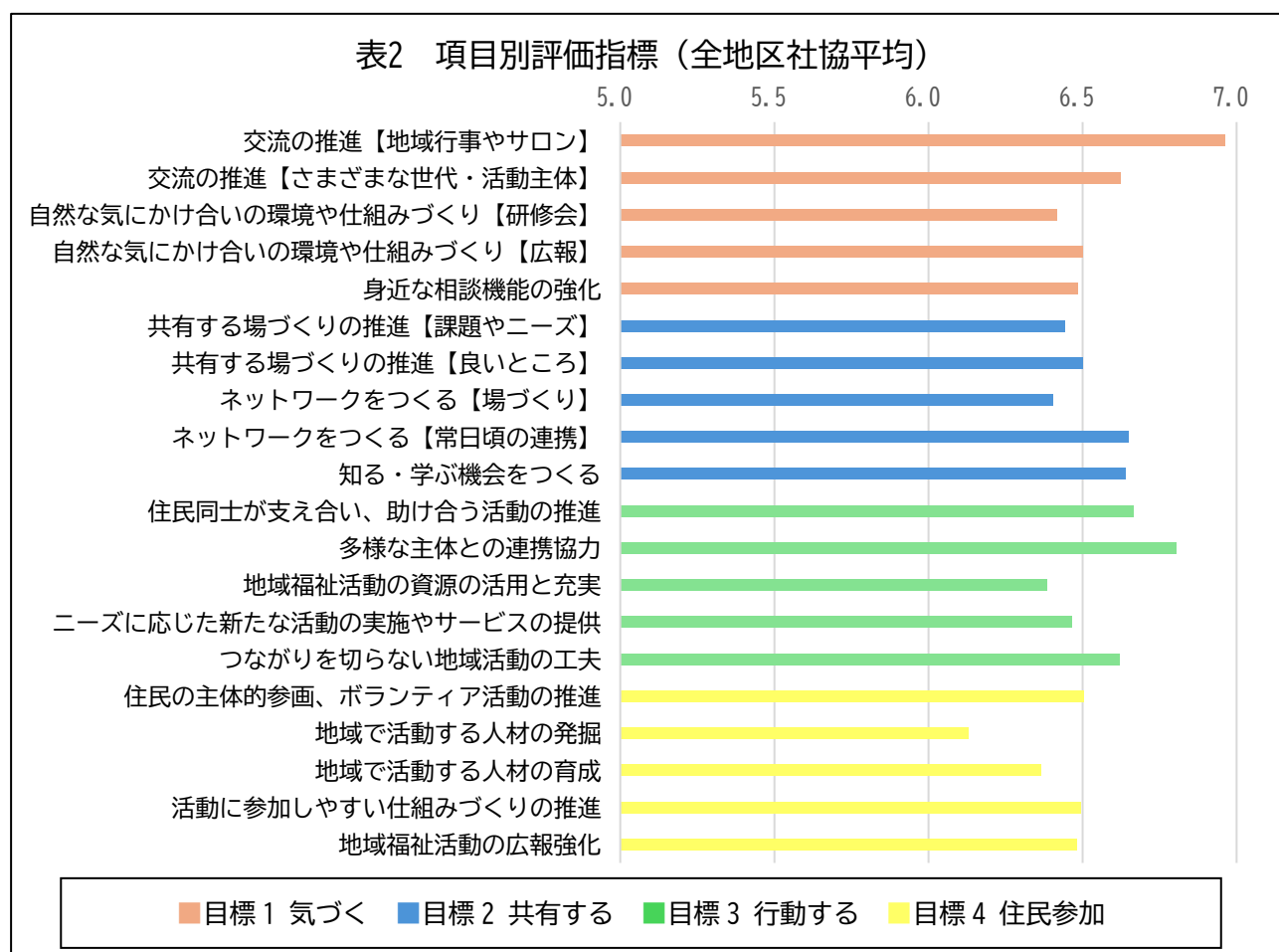
特に活動目標 1「身近な福祉課題に気づく力を高める」の「交流の推進【地域行事やサロン】」が、最も高評価であった。

評価が高まった要因としては、前述の通り、コロナ禍の終息に伴い、参集型の交流活動が活発化してきたことが大きい。併せて、これまで高齢者中心に活動を進めてきた地区社協において、子どもを対象とした取り組みや世代間交流事業が広がっていることも影響している。

対して、活動目標 4「一人ひとりの住民の参加を推進する」の「地域で活動する人材の発掘」の評価の伸びが最も小さかった。

交流機会が増えたことにより若い世代との接点は増えていることから、指標は向上しているものの、継続的な活動参加にまでは至らず、既存の役員から世代交代が進んでいないという課題を抱えている地区が多くあった。

令和 5 年度評価は、令和 3 年度との相対評価であるため、令和 3 年度時点で継続してできていたことについても、指標が伸びにくいものとなっている。例えば、活動目標 2「地域の課題や良さを共有する場づくりを進める」に関連する項目に大きな伸びが見られなかった理由としては、「情報共有の機会や会議は、コロナ禍でも途切れずに行っていた。現在も同じペースで続けている」という評価の地区が多くあったことが挙げられる。



(3) 区・支部別指標（表 3）

区・支部ごとの指標を比較すると、表 3 の通りとなる。

宮城野区においては、活動目標 3「解決のために行動する」の指標が大きく向上していた。コロナ禍中につながりを途切れさせない取り組みとして行っていた、手紙によるコミュニケーションやマスク配付をきっかけとした訪問活動など、工夫した活動を継続し、つながりを広げられたことが 1 つの要因となっている。また、助成金活用などにより、若い世代を対象とした新たな取り組みが増えていることも影響している。

太白区においては、活動目標 4「一人ひとりの住民の参加を推進する」の平均値が「7」を超えており、4 つの活動目標の中で最も高い指標となっていた。その要因としては、地区内で活動周知の場を設ける、地区社協のリーフレットを作成するなどして、地区社協やその活動の理解を促進していることがあげられている。

なかなか評価が伸びなかった地区においては、コロナ禍中に地域特有の課題（過疎化、高齢化、都市化など）が深刻化し住民同士のつながりが薄れたために、十分に活動状況が回復しなかったという課題があった。

